

進路通信

No. 28

和歌山市立楠見中学校

2021.12.2



今日を振り返り、明日への活力にしよう！
がんばれ3年生☆

【合否判定の基準】（令和4年度和歌山県立高等学校入学者選抜実施要項から）

資料【1】（第2回進路説明会 資料③—別表1 より抜粋）

学校名	学科名 (コース等)	求める生徒像	割合						
			調査書		学力検査		面接・実技検査等		
			割合	傾斜 評価	割合	傾斜 配点	割合	内容	
A 高校	普通科	学習意欲が高く、自らの進路に基づき、積極的に学んでいこうという意欲がある生徒を募集します。	30%		70%				
	B 学科	学習意欲が高く、国際理解教育に興味・関心のある生徒を募集します。	30%		70%				

資料【2】（第2回進路説明会 資料① より抜粋）

(3) 合否判定の手順について

ア 第1段階

全受検者のうち、次の(ア)、(イ)及び、面接・実技検査等を実施した場合は(ウ)のいずれかにおいて、それぞれの条件を満たす者を合格予定者とする。ただし、第1段階での合格予定者数は、**募集枠の80%**を上限とし、80%を超えた場合は、(ア)～(ウ)をそれぞれの割合(募集枠に対する割合)が保たれるよう減じることにより調整するものとする。

(ア)「調査書」の記載内容が優れた者で「**学力検査の成績**」が募集枠内にある者のうち、「選抜選考基準」(別表1)に示した割合内にある者。ただし、面接・実技検査等を実施した場合は、その成績が著しく下位の者を除く。

(イ)「学力検査の成績」が優れた者で「**評定**」が募集枠内にある者のうち、「選抜選考基準」(別表1)に示した割合内にある者。ただし、面接・実技検査等を実施した場合は、その成績が著しく下位の者を除く。

(ウ)「面接・実技検査等の成績」が優れた者で「**評定**」及び「**学力検査の成績**」が募集枠内にある者のうち、「選抜選考基準」(別表1)に示した割合内にある者。

定員に満たないときは、**全受検者数の80%**

イ 第2段階

第1段階における合格予定者数が募集枠の80%に満たない場合は、第1段階の(ア)～(ウ)を同じ割合(募集枠に対する割合)が保たれるよう増加させることにより、合格予定者数が**募集枠の80%**になるまで調整する。

ウ 第3段階

第1段階及び第2段階の合格予定者を除いたすべての受検者に、スポーツ推薦で合格しなかった者及び第2志望の者を加え、「調査書」及び「学力検査の成績」並びにその他の資料や面接・実技検査等を実施したときの成績も含め、学科の特色を考慮しながら総合的に判定し、合格予定者とする。ただし、用いる判定資料はこれらの受検生に共通のものとする。

エ 第4段階

第3段階において、募集枠までを合格予定者としたうえ、更に、全受検者について総合的な観点から検討し、最終的に合格者を決定する。

☆学力検査【500点】+評定【180点】(+面接・実技点)の合計点 で合否を判定しているではありません!

1・2年の評定(9教科×5段階)の合計(90点満点)
+ 3年の評定(9教科×5段階)の合計の2倍(90点満点)
の計180満点

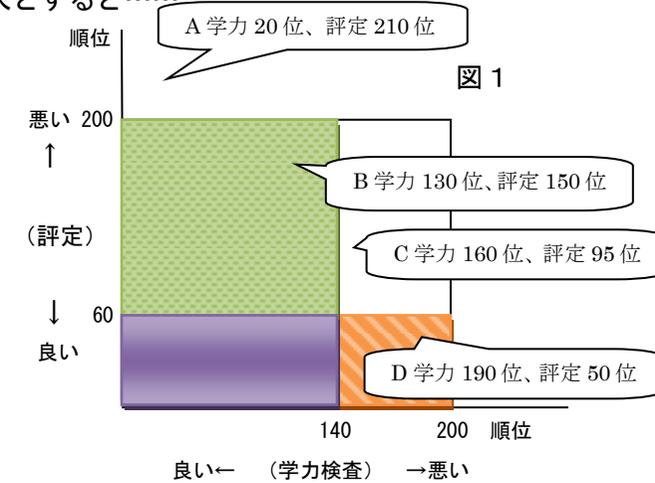
資料【1】の表のように、各校が調査書、学力検査、面接・実技点の判定の割合を決めています。そして、資料【2】の手順で合否を判定します。

たとえば、**A高校(普通科)は、調査書30%、学力検査70%の割合で合否を判定している**と思われれます。ここで、A高校(普通科)の定員を200人とすると……

〈第1段階〉

全受検者を**学力検査・調査書をそれぞれ成績順に並べて、両方とも定員(200人)以内にある人の中で、調査書60位(30%)以内、学力検査140位(70%)以内の人が、まず合格予定者になります。**

(図1の色のついている範囲が合格予定者です。)

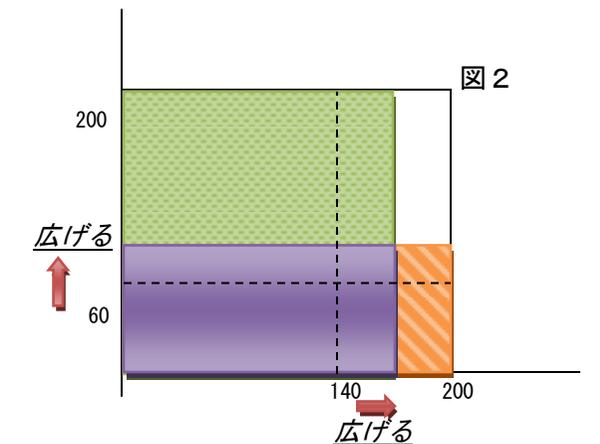


〈第2段階〉

学力検査・調査書の両方とも定員(200人)以内にある人の中で、定員の80%(160人)になるまで、そのラインを広げていきます。

(図2の色のついている範囲が合格予定者です。)

逆にいうと、**学力検査・調査書どちらかが定員(200人)以内に入らない人(受検者のうちで内申点が極端に悪い人や学力検査が極端に悪い人)は、この段階で、合格予定者(160人)には入れません。**



〈第3段階〉

第1段階・第2段階で合格予定者にならなかった人と、(B科)で合格予定者にならなかった人とスポーツ推薦で合格予定者にならなかった人の中から、残りの20%の合格予定者を決めます。

つまり、学力検査で評定を(評定で学力検査を)、直接“穴埋め”できません。**評定・学力検査の両方とも受検する高校の定員枠内に入っていないければ、“厳しい戦い”になることを覚悟しなければなりません。**

(「残り20%になった時点から、競争に勝利しなければならない」ということです。)